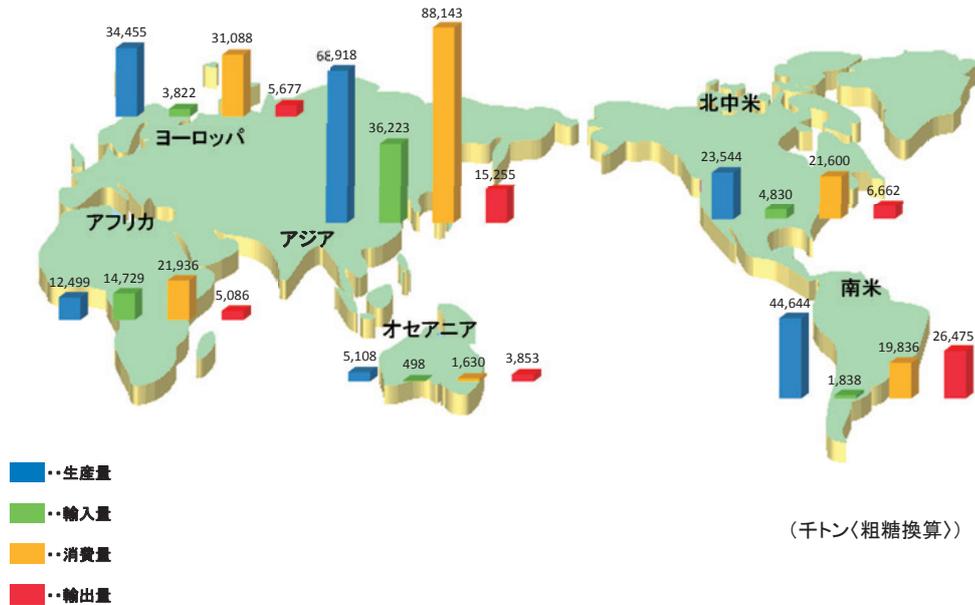


砂糖の国際需給

調査情報部（現 総務部総務課付） 丸吉 裕子

1. 世界の砂糖需給（2018年3月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2017/18年度予測値）



資料：Agra CEAS Consulting※「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis, March 2018」
 (※農産物の需給などを調査する英国の大手民間調査会社)

注1：年度は2017年10月～翌9月。

注2：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか5カ国を含む。

英国の調査会社Agra CEAS Consulting（農産物の需給などを調査する英国の大手民間調査会社）の2018年3月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2017/18砂糖年度（10月～翌9月）の世界の砂糖生産量は、1億8917万トン（粗糖換算（以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算）、前年度比5.3%増）とやや増加が見込まれている（表1）。これは、主にアジアやヨーロッパなどの主要地域で増加が見込まれているためである。特に、2017年9月末に生産割当が廃止されたEUは、前年度比

18.9%増と大幅な増加が見込まれている。

同年度の世界の砂糖消費量は、アフリカやアジアで、人口増加や経済成長に伴い堅調に推移することから、1億8423万トン（同2.0%増）と見込まれている。

この結果、生産量が消費量を上回ると予想されることから、世界の砂糖需給は3年ぶりに緩和すると見込まれている。また、期末在庫率は前年度から1.3ポイント上昇し、38.7%と見込まれている。なお、地域別の砂糖需給は図1の通りとなっている。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1989/90	35,477	109,012	27,349	109,390	32,516	29,932	27.4
1994/95	36,020	116,084	33,328	114,963	33,905	36,564	31.8
1999/2000	54,618	134,332	38,747	130,126	40,070	57,501	44.2
2004/05	65,620	141,016	46,976	144,649	50,021	58,942	40.7
2009/10	60,045	158,448	57,159	162,342	57,166	56,144	34.6
2013/14	74,249	181,470	58,464	175,770	59,085	79,327	45.1
2014/15	79,327	180,641	58,788	178,658	59,602	80,497	45.1
2015/16	80,497	174,151	66,355	180,187	69,169	71,646	39.8
2016/17	71,646	179,595	63,001	180,548	66,258	67,435	37.4
2017/18 (2017年12月予測)	67,855	191,402	61,799	184,236	63,662	73,158	39.7
2017/18 (2018年3月予測)	67,435	189,169	61,939	184,232	63,008	71,303	38.7

資料：Agra CEAS Consulting 「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis, March 2018」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

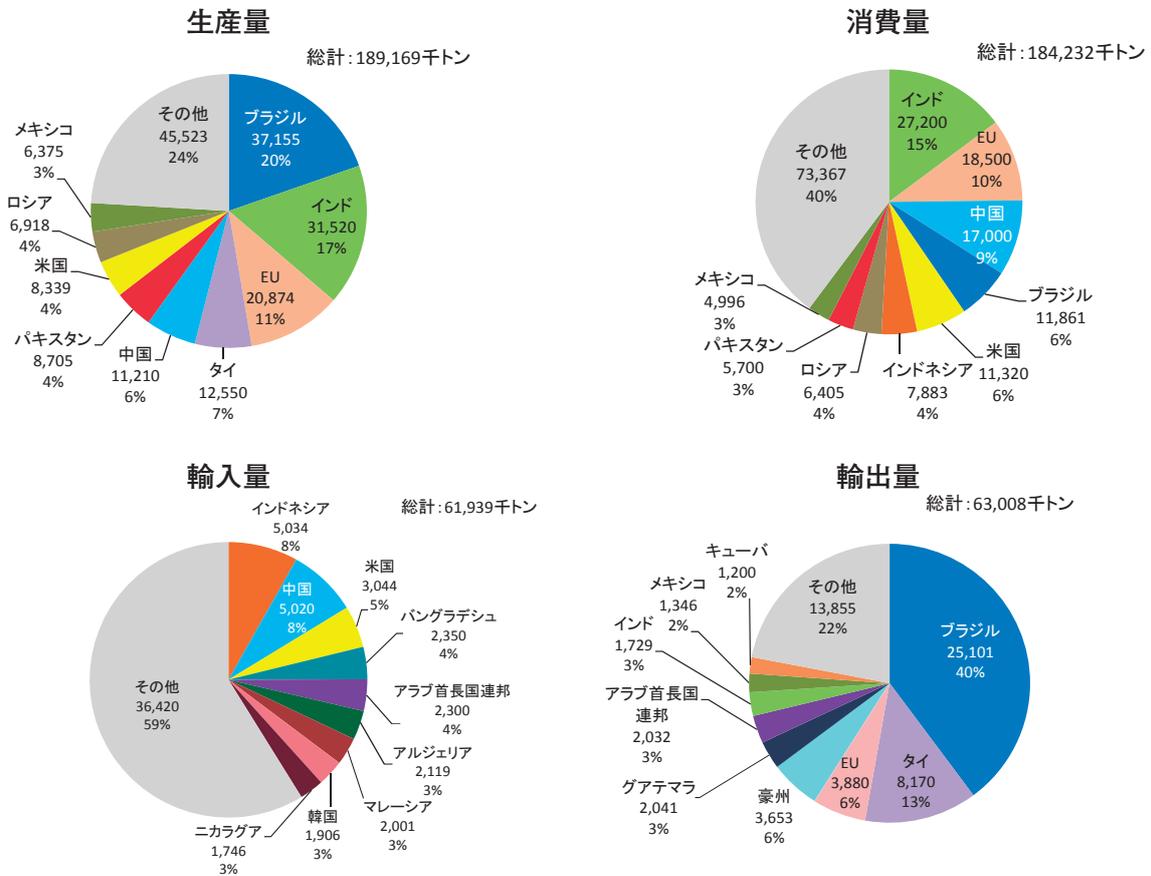
注2：2014/15年度および2015/16年度は推定値、2016/17年度および2017/18年度は予測値である。

注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）である。

注4：期末在庫率は期末在庫量を消費量で除した割合である。

2. 主要国の砂糖需給（2018年3月時点予測）

図2 主要国の生産量、輸入量、消費量、輸出量（2017/18年度）



資料：Agra CEAS Consulting 「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis, March 2018」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：主要国（上位9カ国）とその他を表示。

注3：円グラフのその他は総計から主要国の計を差し引いた数値。

【生産量】

2017/18年度（10月～翌9月）の主要国の砂糖生産量を国別にみると、世界最大の生産国であるブラジルが、3716万トン（前年度比11.4%減）とかなりの減少が見込まれている（図2）。これは、原油価格の上昇によりエタノール需要が増加し、サトウキビのエタノールへの仕向け割合の増加が予測されているためである。

一方、インドやEU、タイ、中国といった上位国はいずれも増加が見込まれている。特に、インドとタイは、好天による製糖歩留まりの向上が見込まれるため、それぞれ3152万トン（同42.5%増）、1255万トン（同21.9%増）と大幅な増加が見込まれ、タイは過去最高に達すると予測されている。EUも、生産割当の廃止により、域内主要生産国での増産が見込まれるため、2087万トン（同18.9%増）と大幅な増加が見込まれている。中国は、主要生産地における増産により、1121万トン（同11.0%増）とかなりの増加が見込まれている。パキスタンは、綿花からの作付け転換の進展に加え、単収の向上により、871万トン（同13.1%増）と、前年度に引き続き、かなりの増加が見込まれている。

【輸入量】

2017/18年度の主要国の砂糖輸入量を国別にみると、最大の輸入国であるインドネシアは、消費量の堅調な増加が見込まれるものの、生産量が増加するため、503万トン（前年度比1.3%減）とわずかな減少が見込まれている。中国は、依然として生産量が消費量を下回ると見込まれる中、期首在庫量が低水準にあるため、502万トン（同37.4%増）と大幅な増加が見込まれている。米国は、特にメキシコからの輸入量が増加し、304万トン（同4.4%増）とやや増加が見込まれている。バングラデシュは、期首在庫量の減少から、235万トン（同6.8%増）とかなりの増加が見込まれている。

【消費量】

2017/18年度の主要国の砂糖消費量は、軒並み増加が見込まれている。経済成長や人口増加の著しいアジア圏では、最大消費国のインドが2720万トン（前年度比1.7%増）、中国が1700万トン（同1.6%増）とわずかに増加し、インドネシアが788万トン（同4.2%増）とやや増加し、パキスタンが570万トン（同2.9%増）とわずかな増加が見込まれている。米国やロシアも、それぞれ1132万トン（同1.6%増）、641万トン（同1.0%増）とわずかな増加が見込まれている。

【輸出量】

2017/18年度の主要国の砂糖輸出量を国別にみると、最大輸出国であるブラジルが、生産量の減少に伴い2510万トン（前年度比15.1%減）とかなりの減少が見込まれている。また、インドでは、高騰する国内砂糖価格の安定化を図るため、2016年6月に輸出関税が導入された上、2017年4月以降、貿易業者が保有する在庫数量に上限を設定するなどの措置が講じられたことから、173万トン（同23.1%減）と大幅な減少が見込まれている。

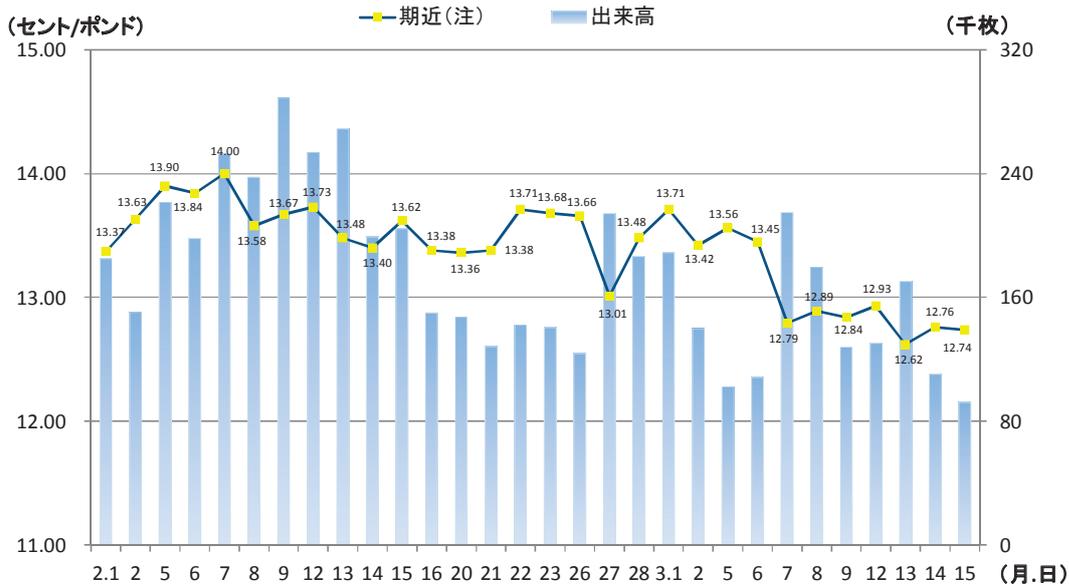
一方、過去最高の生産量が見込まれるタイは、台湾向け輸出の増加などに伴い、817万トン（同15.4%増）とかなりの増加が見込まれている。EUは、生産割当の廃止に伴い輸出上限が撤廃されたことから、388万トン（同2.6倍）と大幅な増加が見込まれている。キューバは、生産量の増加に伴い、120万トン（同15.4%増）と見込まれている。

3. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖相場の動き (2/1 ~ 3/15)

～世界的な供給過剰予測などから1ポンド当たり12.62セントへ下落～

図3 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所 (ICE)
注：2月は期近3月限、3月は同5月限。

ニューヨーク粗糖先物相場（期近3月限）の2018年2月の推移を見ると、軟調な米ドルに支えられ上げ基調で推移し、7日は1ポンド当たり14.00セントまで上昇した。その後は弱含みで推移し、20日には同13.36セントとなった。22日には同13.71セントに反発したものの、世界的な供給過剰が予想されたため、27日には同13.01セントに下落し、28日はやや戻し、同13.48セントで納会した。

5月が限月となる3月に入ると、1日に同13.71

セントの値を付けて以降、相場は弱含みで推移し、7日は、インド製糖協会 (ISMA) が砂糖生産量の見通しを上方修正したことを受け、同12.79セントへ下落した。ブラジルで、エタノール需要の高まりから、サトウキビをエタノールへ仕向ける動きが見られることから、12日には同12.93セントとなったが、13日は、インドやタイなどの主要生産国での増産見通しから同12.62セントへ反落し、15日は同12.74セントとなった。

4. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2018年3月時点予測）

ブラジル

2017/18年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：874万ha（前年度比3.4%減）

生産量：6億3560万トン（同3.3%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：3990万トン（同1.6%減）

輸出量：2810万トン（同2.2%減）

2017/18年度の砂糖生産量、輸出量ともに、わずかに減少の見込み

2017/18砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、874万ヘクタール（前年度比3.4%減）とやや減少し、生産量は、6億3560万トン（同3.3%減）と見込まれている（表2）。

砂糖生産量は、サトウキビの砂糖への仕向け割合の増加に加え、製糖歩留まりの向上が予想されているため、3990万トン（同1.6%減）とわずかな減少にとどまると見込まれている。

ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）^{（注1）}が発表した2017年4月～翌2月の生産実績報告によると、中南部地域のサトウキビ圧搾量は、多雨の影響から、5億8529万トン（前年同期比1.8%減）とわずかに減少したが、砂糖生産量は、3584万トン（同1.6%増）とわずかに増加した。エタノール生産量は、2548万キロリットル（同1.3%増）、輸出量も含めたエタノールの販売量は、2418万キロリットル（同1.1%増）と、ともにわずかに増加した。含水エタノール^{（注2）}の国内販売量は、価格が上昇したものの、1408万キロリットル（同6.1%増）とかなり増加した。

砂糖輸出量は、世界的に輸入需要が弱まるとされていることから、2810万トン（前年度比2.2%減）とわずかな減少が見込まれている。現地報道によると、次のサトウキビ収穫期を前に、国際粗糖価格が低水準にあるため、粗糖の輸出を控え、国内の食品

製造企業向けに精製糖の生産および販売を増やしている企業もある。

政府は1月、2017年9月に開始したエタノール輸入に対する20%の関税^{（注3）}について、撤廃する可能性を示唆した。この背景には、ブラジル国内でガソリン価格が上昇し、エタノール需要が高まる中、エタノール供給が逼迫^{ひっぱく}しつつあることがある。なお、現地報道によると、2017年のエタノール輸入量は182万キロリットル（前年比2.2倍）となり、調査が開始された2004年以来初めて、輸出量を上回った。

現地報道によると、南米南部共同市場（メルコスール）とEUの自由貿易協定（FTA）の交渉妥結は、2019年へ持ち越される公算が高まっている。これは、両者の政治的な事情によるもので、EUでは、議会選挙の結果、現政権の影響力が弱まるとされるドイツに代わり、交渉に消極的なフランスが影響力を強める一方、南米でも、ブラジルとパラグアイが、大統領選挙を控えて4月以降内政に注力すると見込まれているため、合意が早急に形成されなければ、交渉は一時的に休止されるとの見方がある。これに対し、ブラジルのミシェル・テメル大統領は先ごろ、4月中旬までの最終合意を目指す意向を明らかにしたとの報道もある。同FTAでは、EUは、粗糖については、10万トンの関税割当（枠内税率は現行のCXL割当枠^{（注4）}と同率の1トン当たり98ユーロ（1万3034円〈2018年2月末日TTS：1ユーロ＝133円〉）を適用し、エタノールについては、6年

以内に60万トンの関税割当を導入し、このうち40万トンは化学工業向けとなるとみられている。

また、現地報道によると、日本の自動車製造企業は先ごろ、世界初のハイブリッドフレックス車（燃料としてのガソリンおよびエタノールに加え、電力も利用できる自動車）の試作品をサンパウロ州で発表し、ブラジル国内での商業化を目指している。

(注1) ブラジル全体の砂糖生産量の9割を占める中南部地域を区域としている団体。

(注2) 自動車の燃料として用いられるエタノールには、含水と無水の2種類がある。含水エタノールは製造段階で蒸留した際に得られた水分を5%程度含み、フレックス車（ガソリンとエタノールいずれも燃料に利用できる自動車）でそのまま燃料として利用される。一方、無水エタノールは含水エタノールから水分を取り除きアルコール100%とし

たもので、ガソリンに混合して利用される。

(注3) 政府は2017年8月23日、エタノール輸入に対し、年間60万キロリットル（四半期ごとに15万キロリットル）の無税の関税割当を設けるとともに、これを超過して輸入されるエタノールに対しては20%の関税を課すことを決定した。同関税は、エタノール在庫量の低下に伴い2010年に停止して以来の再導入で、2年間実施された後、見直しが予定されていた。同措置は、国内のエタノール生産量の減少やトウモロコシの国際価格の下落などにより米国からのトウモロコシ由来のエタノール輸入量が急増している状況を受け、UNICAや北東部の砂糖・エタノール製造企業などが、以前から政府へ実施を要請していたものである。

(注4) 粗糖輸入国であったフィンランドなどのEU加盟に当たり協議、合意の下に設定された関税割当で、対象は、精製糖製造用の甘しや粗糖（ただし、インドはHSコード1701台のすべての品目）。

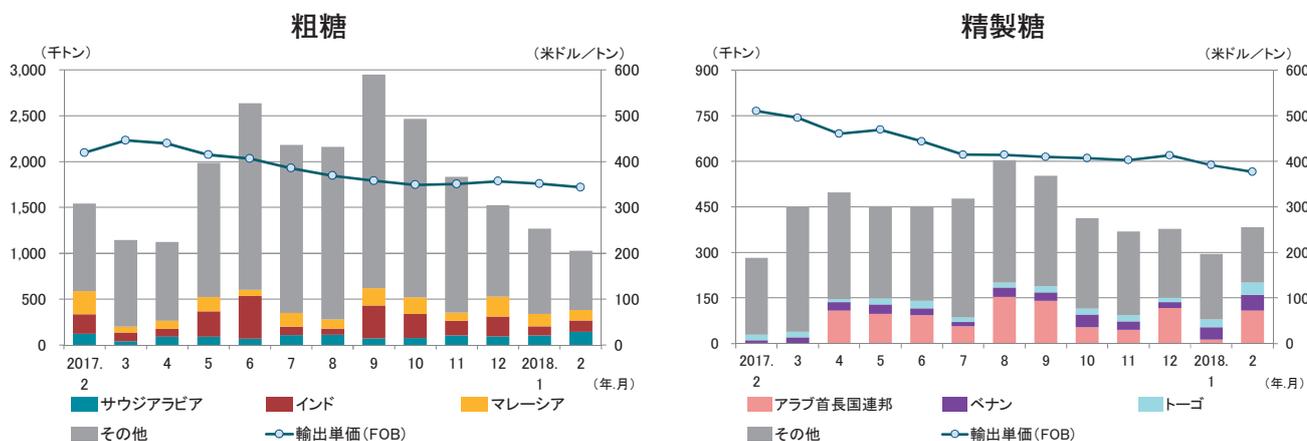
表2 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (2月予測)	2017/18 (3月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	9,004	8,655	9,049	8,739	8,739	▲ 3.4
サトウキビ生産量	634,767	665,586	657,184	635,600	635,600	▲ 3.3
砂糖	生産量	37,313	35,194	40,534	40,400	▲ 1.6
	輸入量	-	-	-	-	-
	消費量	12,400	11,800	11,700	11,800	0.9
	輸出量	24,666	25,124	28,740	28,255	▲ 2.2
	期末在庫量	2,543	813	906	1,251	▲ 0.3
	期末在庫率	20.5	6.9	7.7	10.6	▲ 1.1

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, March 2018」

(参考) ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

インド

2017/18年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：498万ha（前年度比5.0%増）

生産量：3億3769万トン（同10.1%増）

【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：3152万トン（同42.5%増）

輸入量：165万トン（同38.0%減）

2017/18年度の砂糖生産量は大幅増、輸入量は大幅減の見込み

2017/18砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は498万ヘクタール（前年度比5.0%増）とやや増加し、生産量は3億3769万トン（同10.1%増）とかなりの増加が見込まれている（表3）。

砂糖生産量は、サトウキビの増産に加え、主要生産州で適度な降雨に恵まれ、製糖歩留まりの向上が見込まれていることから、3152万トン（同42.5%増）と3年ぶりの増加が見込まれている。砂糖輸入量は、生産量の増加に伴い、165万トン（同38.0%減）と大幅な減少が見込まれている。

インド製糖協会（ISMA）によると、2017年10月～翌2月の砂糖生産量は、精製糖換算で2305万トン（前年同期比41.8%増）と大幅に増加した。このうち、マハラシュトラ州は631万トン、ウッタルプラデシュ州は740万トン、カルナタカ州は334万トンとなった。

ISMAが3月上旬に発表した2017/18年度の砂糖需給見通しによると、砂糖生産量は、精製糖換算で2950万トンと見込まれている。なお、現地報道によると、中央政府は3月中旬、砂糖生産量を2720万トンと見込んだ。

現地報道によると、中央政府は2月6日、隣国パキスタンからの補助金を受けた砂糖のダンピング輸出を阻止するため、砂糖の輸入関税を現行の50%から100%へ引き上げた。パキスタンは、近ごろ、輸出補助金の対象となる砂糖の数量を50万トンか

ら200万トンに拡大しており、同国からの供給を制御するためには、現行の税率では不十分であるとの懸念が高まっていた。製糖業者のサトウキビ取引価格は、前年同期に比べ11%上昇する中で、安価な砂糖の輸入増加により、製糖業者の利益がこれ以上そがれることがないように、輸入禁止に近い水準まで関税率を引き上げることとなった。なお、ISMAによると、関税が引き上げられて以降、国内の砂糖卸売価格は10%程度上昇した。

また、政府は2月8日、2月および3月の製糖業者に対する砂糖の最低保有在庫数量を設定した。同措置により、製糖業者は、2月末時点では当月生産量（輸出仕向け分を除く）の少なくとも83%を、3月末時点では同86%を在庫として保有しなければならない。同措置は、国内供給量の増加により国内砂糖価格が2017年10月以降17%下落し、製糖業者による生産者へのサトウキビ代金の支払いが難航していることを受け、製糖業者の販売を制限することで、これ以上の価格下落を防ぐことを目的としている。

一部報道によると、政府は、20%の砂糖の輸出関税^(注)を撤廃した。これは、砂糖生産量の大幅な増加や国内砂糖価格の下落が見込まれることを受け、余剰分の輸出を促すことが目的とみられる。

(注) 粗糖を輸入して6カ月以内に再輸出する精製糖や2500トンのオーガニックシュガーを除き、2016年6月中旬以降適用されていた。

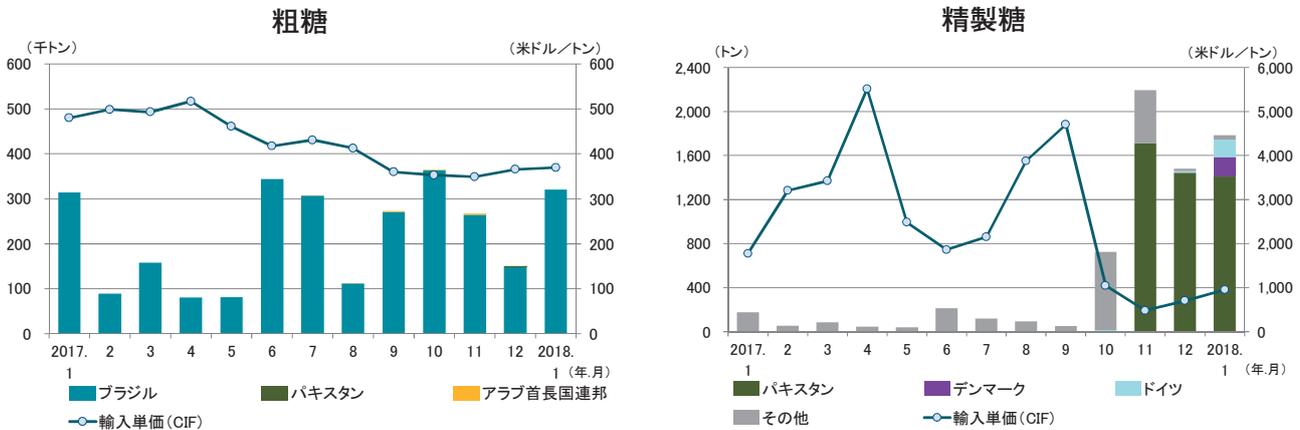
表3 インドの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (2月予測)	2017/18 (3月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	5,060	5,055	4,739	4,978	4,978	5.0	
サトウキビ生産量	362,333	358,891	306,720	337,690	337,690	10.1	
砂糖	生産量	30,616	27,372	22,126	28,370	31,520	42.5
	輸入量	1,303	1,904	2,665	1,818	1,651	▲ 38.0
	消費量	27,842	27,010	26,739	27,200	27,200	1.7
	輸出量	2,608	4,105	2,249	1,900	1,729	▲ 23.1
	期末在庫量	9,692	7,852	3,655	4,743	7,897	116.1
	期末在庫率	34.8	29.1	13.7	17.4	29.0	112.4

資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, March 2018]

(参考) インドの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14 (粗糖) および1701.99 (精製糖) の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

中国

2017/18年度 (10月～翌9月) の見通し

【サトウキビ・てん菜】

収穫面積：193万ha (前年度比5.5%増)・20万ha (同30.9%増)

生産量：1億3700万トン (同8.3%増)・1100万トン (同42.8%増)

【砂糖 (甘しゅ糖およびてん菜糖)】

生産量：1121万トン (同11.0%増)

輸入量：502万トン (同37.4%増)

2017/18年度の砂糖生産量はかなり増加、輸入量は大幅増の見込み

2017/18砂糖年度 (10月～翌9月) は、サトウキビについては、収穫面積が193万ヘクタール (前年度比5.5%増) とやや増加し、生産量は単収の増加もあり、1億3700万トン (同8.3%増) とかなりの増加が見込まれている (表4)。

てん菜についても、収穫面積は20万ヘクタール

(同30.9%増)、生産量は1100万トン (同42.8%増) と、ともに大幅な増加が見込まれている。地域別では、主要生産地である内モンゴル自治区の増加が見込まれている。これらにより、砂糖生産量は、1121万トン (同11.0%増) とかなりの増加が見込まれている。

中国砂糖協会 (CSA) によると、2017年10月～翌2月の砂糖生産量は、精製糖換算で737万ト

ン（前年同期比2.9%増）とわずかに増加した（図4）。このうち、甘しゃ糖は、622万トン（同1.0%増）とわずかに増加し、てん菜糖は115万トン（同14.9%増）とかなり増加している。

中国農業省は2月8日、砂糖を含む農産物の需給見通しを公表した。これによると、2017/18年度の砂糖生産量は、サトウキビおよびてん菜の栽培面積の拡大により、1035万トン（前年度比11.4%増）とかなり増加すると見込まれ、このうち甘しゃ糖は、915万トン（同11.0%増）、てん菜糖は120万トン（同14.3%増）と、ともにかなりの増加が見込まれている。

砂糖輸入量は、依然として生産量が消費量を下回ると見込まれる中、期首在庫量が低水準にあることもあり、502万トン（同37.4%増）と大幅な増加が見込まれている。

砂糖輸入については、2017年5月22日から3

年間、世界貿易機関（WTO）協定に基づく関税割当（枠内関税率15%）の枠外で輸入される砂糖の関税率が95%まで引き上げられている^(注)。また、中央政府は2017年10月中旬、2018年の砂糖の輸入割当数量を前年と同水準の195万トンに設定するとともに、枠外数量については、前年比半減の100万トンに制限するとしている。中国税関総署によると、1月の輸入量は3万トンと、月間輸入量としては2011年2月以来の低水準まで大幅に減少した。

(注) 海外からの安価な砂糖の流入により、国内の砂糖産業に影響が生じているとして、ブラジル、豪州および韓国などの砂糖輸入先国を対象に実施した調査結果を踏まえ、50%であった枠外税率が95%に引き上げられた。ただし、開発途上の約190の国や地域（フィリピンやパキスタンといった従来中国と関係の深い貿易相手国を含む）については、一定の条件を満たせば対象外とされている。

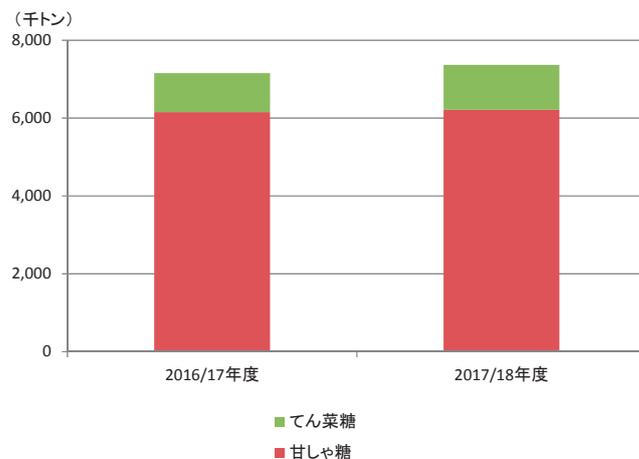
表4 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (2月予測)	2017/18 (3月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,760	1,660	1,827	1,927	1,927	5.5	
サトウキビ生産量	125,611	117,295	126,522	136,998	136,998	8.3	
てん菜収穫面積	139	135	149	195	195	30.9	
てん菜生産量	8,000	7,337	7,705	11,000	11,000	42.8	
砂糖	生産量	11,474	9,459	10,095	11,087	11,210	11.0
	輸入量	5,354	6,199	3,653	5,329	5,020	37.4
	消費量	16,600	17,283	16,739	17,200	17,000	1.6
	輸出量	64	167	135	115	128	▲ 5.1
	期末在庫量	7,305	5,513	2,387	1,488	1,488	▲ 37.6
	期末在庫率	44.0	31.9	14.3	8.6	8.8	▲ 38.6

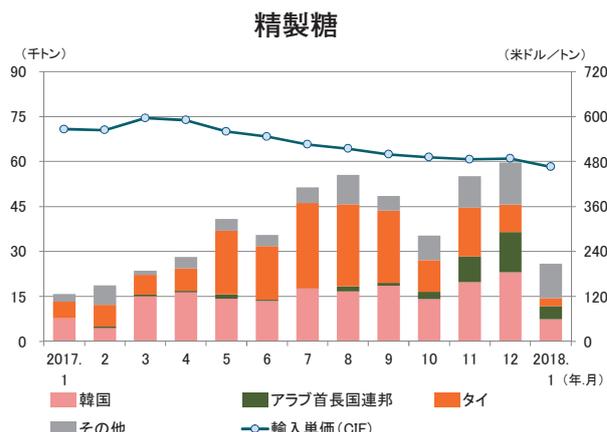
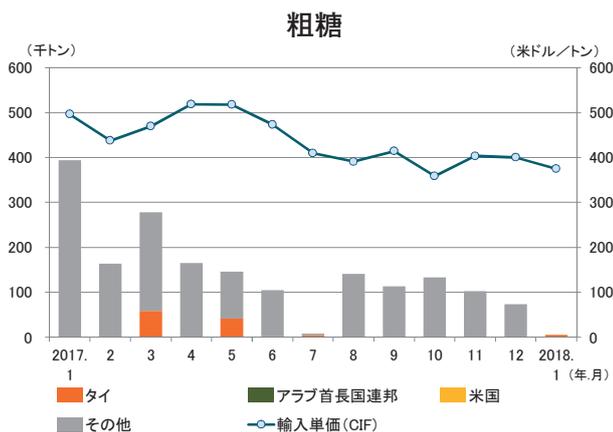
資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, March 2018]

図4 中国の砂糖生産実績（10月～翌2月の生産量）



資料：CSA
注：精製糖換算。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

E U

2017/18年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：185万ha（前年度比16.0%増）
生産量：1億4162万トン（同20.1%増）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：2087万トン（同18.9%増）
輸出量：388万トン（同2.6倍）

2017/18年度の砂糖生産量、輸出量ともに、大幅増の見込み

生産割当廃止後、初年度となる2017/18砂糖年度（10月～翌9月）は、てん菜の収穫面積が185

万ヘクタール（前年度比16.0%増）、生産量は、好天による単収の増加もあり、1億4162万トン（同20.1%増）と、ともに大幅な増加が見込まれている（表5）。これにより、砂糖生産量は2087万ト

ン（同18.9%増）、輸出量は388万トン（同2.6倍）と、大幅な増加が見込まれている。

欧州委員会は1月下旬、2017/18年度の砂糖の需給見通しを公表した。これによると、砂糖生産量は精製糖換算で2058万トン（同22.2%増）と大幅に増加する一方、輸入量は186万トン（同38.9%減）と、前年度の6割程度と見込まれている。輸出量は、域内消費量が大きく変わらない中、域内供給量の増加に加え、WTOの裁定により設けられた輸出上限が生産割当の廃止に伴い撤廃されること

から、320万トン（同2.3倍）と見込まれている。ただし、輸出量は、国際価格とEU域内価格の動向に左右されるとみられる。欧州委員会によると、2017年10月～翌1月の輸出量は、エジプトやスリランカなど中東・アジア諸国向けを中心に、129万トン（前年同期比3.9倍）と大幅に増加した。また、2017年12月の域内平均白糖卸売価格は、1トン当たり400ユーロ（5万3200円）と、前年同期を同79ユーロ（1万507円）下回った。

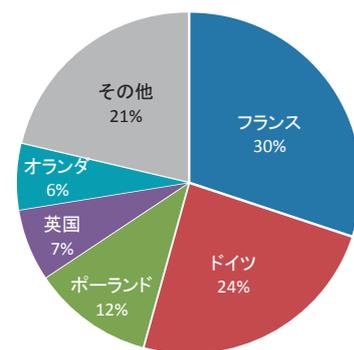
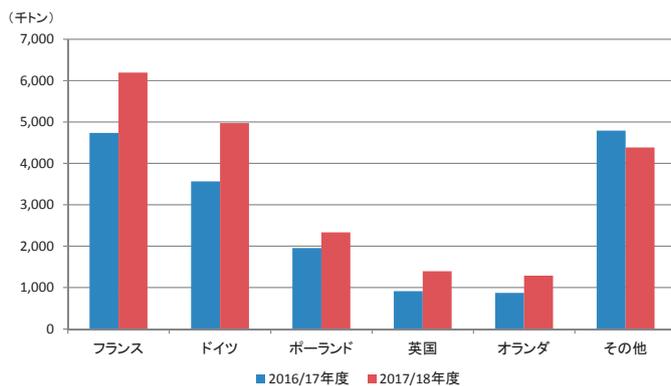
表5 EUの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (2月予測)	2017/18 (3月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	1,632	1,437	1,592	1,846	1,846	16.0	
てん菜生産量	131,009	105,162	117,948	141,621	141,621	20.1	
砂糖	生産量	19,147	15,098	17,563	20,874	18.9	
	輸入量	3,456	3,750	3,209	1,810	▲ 47.0	
	消費量	19,245	18,719	18,740	18,500	▲ 1.3	
	輸出量	1,558	1,506	1,493	3,904	159.8	
	期末在庫量	10,599	9,222	9,760	10,040	9,954	2.0
	期末在庫率	55.1	49.3	52.1	54.3	53.8	3.3

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, March 2018」

（参考）EUの主要国別砂糖生産見込みおよび生産割合



資料：欧州委員会

注1：精製糖換算。

注2：2018年1月時点での予測値。

注3：2016/17年度は推定値、2017/18年度は予測値。

注4：生産割合は2017/18年度。

5. 日本の主要輸入先国の動向（2018年3月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖（HSコード1701.14-110）および甘しや糖・その他（同1701.14-200）の合計）の主要輸入先国は、タイ、豪州、南アフリカ、フィリピン、グアテマラであったが、2017年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が69.5%（前年比17.3ポイント増）、タイが25.0%（同22.7ポイント減）と、この2カ国で9割以上を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイは毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として3カ月に1回の報告とし、今回はグアテマラを報告する。

豪 州

2017/18年度（7月～翌6月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：40万ha（前年度比1.8%増）

生産量：3335万トン（同8.7%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：471万トン（同4.3%減）

輸出量：357万トン（同8.8%減）

2017/18年度の砂糖生産量はやや減少、 輸出量はかなり減少の見込み

2017/18砂糖年度（7月～翌6月）のサトウキビ収穫面積は40万ヘクタール（前年度比1.8%増）とわずかな増加が見込まれているものの、2017年3月に襲来したサイクロンの影響による単収の減少から、生産量は3335万トン（同8.7%減）とかなりの減少が見込まれている（表6）。これに伴い、砂糖生産量は、471万トン（同4.3%減）とやや減少が見込まれている。輸出量は、中国向けなどの減少に伴い357万トン（同8.8%減）とかなりの減少が見込まれている。

豪州農業資源経済科学局（ABARES）が3月6日に公表した生産予測によると、2017/18年度の砂糖生産量は、サトウキビ栽培面積が38万ヘクタール（同2.3%増）とわずかに増加するものの、サイクロンの被害に伴い、1ヘクタール当たり収量が88トン（同10.3%減）とかなり減少することから、470万トン（同2.2%減）とわずかな減少が見込まれている。輸出量は、384万トン（同3.2%減）と

見込まれている。2018/19年度は、収穫面積が拡大し、生産量の増加が予想されることから、砂糖生産量は483万トン（同2.8%増）とわずかな増加が見込まれている。輸出量は、386万トン（同0.5%増）にとどまると見込まれている。ただし、3月上旬、クイーンズランド（QLD）州北部のケアンズからタウンズビルにかけてのサトウキビ生産地域が洪水に見舞われたため、これらの予測は、今後、下方修正される可能性もある。洪水については、サトウキビ生産者団体Canegrowersによると、サトウキビ^{ほじょう}圃場の2割が3日間浸水したり、製糖工場へのサトウキビ運搬用に敷設された線路が寸断されたりするなどの被害が発生している地域もある。同団体は、サトウキビの流亡や、長時間の浸水による生育の遅れを懸念しており、QLD州政府と協力し、被害状況の調査を進めたいとしている。

環太平洋パートナーシップに関する包括的および先進的な協定（TPP11協定）は3月8日、チリで各国閣僚によって署名された。これに先立ち、QLD州砂糖公社（QSL）^{（注）}は声明を発表し、同協

定は、QLD州の粗糖輸出に対して全面的な変革をもたらすまではないものの、特に日本、カナダおよびメキシコ市場へのアクセスが拡大させるとしている。

(注) QLD州産砂糖の輸出を担う公社。同州産砂糖輸出の9割を扱っていたが、2015年の砂糖産業法改正により、2017/18年度以降、製糖企業を介してQSLが輸出する従来の形態に加え、砂糖を輸出する企業を生産者が選択できるようになった。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (2月予測)	2017/18 (3月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	363	381	393	400	400	1.8	
サトウキビ生産量	32,360	34,827	36,507	33,426	33,349	▲ 8.7	
砂糖	生産量	4,780	5,052	4,926	4,713	▲ 4.3	
	輸入量	170	76	107	150	39.9	
	消費量	1,337	1,298	1,280	1,275	▲ 0.4	
	輸出量	3,687	4,152	3,912	3,569	▲ 8.8	
	期末在庫量	1,088	766	609	628	628	3.3
	期末在庫率	81.4	59.0	47.6	49.3	49.3	3.7

資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, March 2018]

タイ

2017/18年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：154万ha（前年度比9.4%増）

生産量：1億1000万トン（同22.2%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：1255万トン（同21.9%増）

輸出量：817万トン（同15.4%増）

2017/18年度の砂糖生産量は大幅増、輸出量はかなり増加の見込み

2017/18砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、他作物からの転作の進展などにより154万ヘクタール（前年度比9.4%増）とかなり増加し、生産量は、単収の増加から、1億1000万トン（同22.2%増）と大幅な増加が見込まれている（表7）。

砂糖生産量は、好天により製糖歩留まりが向上し、1255万トン（同21.9%増）と大幅な増加が見込まれている。このため、輸出量は、817万トン（同15.4%増）とかなりの増加が見込まれている。

サトウキビ・砂糖委員会事務局（OCSB）によると、砂糖生産量は1300万トン以上に達すると見込まれている。なお、現地報道によると、2017年12月～翌3月上旬までの砂糖生産量は、すでに前年度の砂糖生産量を上回る1012万トン（前年同期

比20.2%増）となった。

現地情報によると、砂糖産業関連法の改正案は2017年12月上旬、閣議で承認された^(注1)。この改正によって、砂糖の販売割当^(注2)は一部を除いて廃止され、製糖企業は、生産量に応じた在庫量の確保が新たに義務付けられることとなる。政府が設定している国内砂糖価格の上限は廃止される。なお、砂糖産業全体の収益をサトウキビ生産者と製糖業者で7：3の割合で分配する現行の収益分配方式は存続する。

政府は1月15日、国内砂糖価格については同日から2年間、現行のサトウキビ・砂糖法を適用しないことで、実質的な価格自由化への即時移行を発表した^(注3)。また、国内供給向けの砂糖の販売割当に関する規定も併せて廃止された。OCSBによると、価格自由化へ移行後、砂糖卸売価格は1キログラム当たり17～18バーツ（60～63円〈2018年2月末

日TTS：1パーツ=3.5円)に下落しており、国際砂糖価格も低水準にあることから、2018/19年度のサトウキビ取引価格は、1トン当たり700パーツ(2450円)程度まで下落すると見込まれている。

関係者によると、改正後の政策の完全施行は、2018/19年度まで持ち越される可能性もある。現地報道によると、一部のサトウキビ生産者組合が、改正案におけるサトウキビ副産物の定義などに異議を唱えており、代替案を国民立法議会に提出する準備を進めているという。

(注1) タイ政府は2016年4月初旬、国際砂糖価格の低迷時などに製糖企業を通じて生産者に支払われる補填金や、砂糖の販売割当および国内砂糖価格の設定は、間接的な輸出補助金に当たりWTO協

定に違反しているとして、ブラジル政府からWTOに提訴された。これを受け、タイ政府は同年11月3日、ブラジルとの2国間協議の場に、同年10月中旬に閣議承認された砂糖政策の改革案を提出した。その後、改革案は、公聴会を実施してから再提出するよう、サトウキビ・砂糖委員会事務局(OCSB)へ差し戻された。OCSBはその後、公聴会を実施し所要の見直しを行った後、再度改革案を閣議へ提出し、2017年12月上旬に承認された。

(注2) タイ産砂糖は、A割当と呼ばれる国内供給向けとB割当およびC割当と呼ばれる輸出向けなどの販売割当に基づき管理されている。

(注3) 現地情報によると、国内砂糖価格については、商務省が法改正後も引き続き監視する予定である。商務省は毎月、参照価格を公表することで、今後も小売価格が参照価格を下回るよう促すものとみられる。

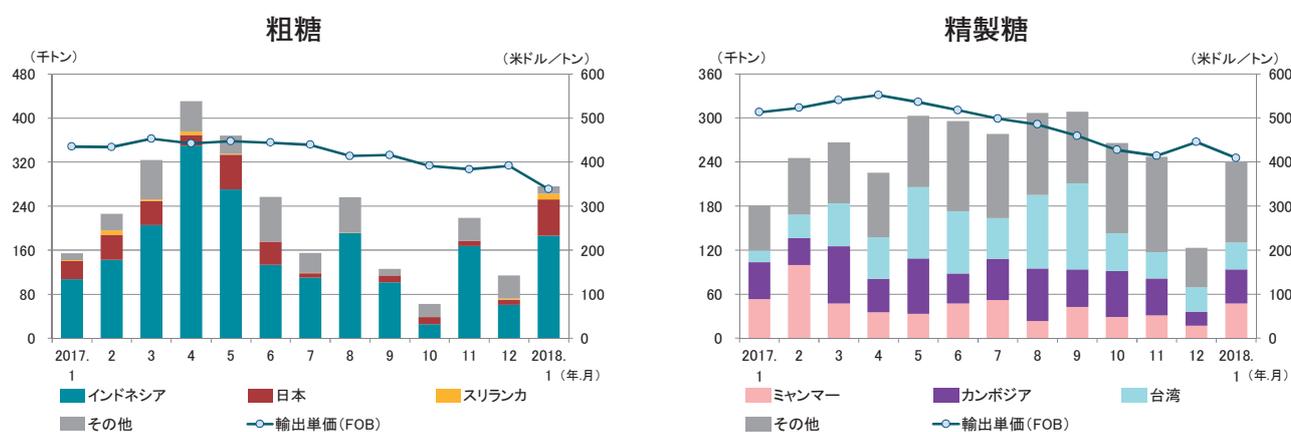
表7 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (2月予測)	2017/18 (3月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	1,403	1,412	1,408	1,540	1,540	9.4	
サトウキビ生産量	105,595	94,047	90,000	105,000	110,000	22.2	
砂糖	生産量	11,579	10,025	10,299	12,000	12,550	21.9
	輸入量	-	-	-	-	-	-
	消費量	3,489	3,500	3,500	3,500	3,500	0.0
	輸出量	8,071	7,805	7,078	8,173	8,170	15.4
	期末在庫量	5,788	4,508	4,228	4,555	5,108	20.8
	期末在庫率	165.9	128.8	120.8	130.1	145.9	20.8

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, March 2018」

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

グアテマラ

2017/18年度（11月～翌10月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：26万ha（前年度比3.0%増）

生産量：2529万トン（同4.7%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：295万トン（同3.0%増）

輸出量：212万トン（同2.3%増）

2017/18年度の砂糖生産量はやや増加、 輸出量はわずかに増加の見込み

2017/18砂糖年度（11月～翌10月）のサトウキビ収穫面積は、26万ヘクタール（前年度比3.0%増）、生産量は2529万トン（同4.7%増）と、ともにやや増加が見込まれている（表8）。

このため、砂糖生産量は、295万トン（同3.0%増）とやや増加し、輸出量は、212万トン（同2.3%増）とわずかに増加すると見込まれている。

現地報道によると、グアテマラ砂糖産業協会は1月中旬、同年度の砂糖生産量を270万～280万トンとする見通しを発表した。

表8 グアテマラの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (12月予測)	2017/18 (3月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	262	252	256	263	263	3.0	
サトウキビ生産量	26,335	23,844	24,151	25,290	25,290	4.7	
砂糖	生産量	3,130	2,970	2,867	2,993	2,952	3.0
	輸入量	1	1	1	1	1	0.0
	消費量	843	826	876	900	900	2.7
	輸出量	2,411	2,066	2,069	2,000	2,115	2.3
	期末在庫量	367	446	369	463	307	▲ 16.8
	期末在庫率	43.5	54.0	42.2	51.4	34.1	▲ 19.1

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, March 2018」